

## 非主食用米（飼料用米等）に係る普及指導活動手法

都道府県名：宮城県

普及指導センター名：登米農業改良普及センター

### 【地域の概要及び取組の背景】

登米市では、米の生産調整への対応策として、飼料用米の作付けを推進している。平成20年度には商社から採卵鶏農場の餌としての飼料用米を供給して欲しいとの要請等があり、59haの飼料用米が作付けされた。

### 【取組の具体的な内容・成果】

#### 1 取組の概要

登米市迫町S地区では、転作は主に加工米や牧草（他集落作業委託）で対応しており、また粘土質土壌で排水不良なため大豆や麦の栽培が難しい。そこで、転作田で自分たちで対応できる作物として多収穫米に着目し、平成19年度から始まった市の「新他用途米栽培実験事業」のモデル地区として多収穫米の栽培に取り組んできた。平成20年度は飼料用に用途を絞り込み、飼料用米の作付けを行った。

普及センターでは、品種の選択や品種に適した栽培技術、さらに低価格に対応しうる低コスト・省力技術の実証、普及等を支援した。

#### 2 特筆すべき取組内容

##### （1）非主食用米の生産利用に向けた関係機関等による推進体制の整備、農業者等に対する意向把握

飼料用米の生産拡大にあたっては、JAみやぎ登米が主体となり設立された協議会に参画し、以下の役割分担の下、飼料用米の生産農家に対する支援を行った。

###### ① JA

作業機械の調整、必要な資材の調達等

###### ② 市、水田農業推進協議会

飼料用米生産に対する行政的支援（産地づくり交付金の活用など）

###### ③ 普及センター

栽培暦の作成や栽培講習会等、不耕起V溝直播栽培技術の支援

##### （2）非主食用米の低コスト多収生産に向けた栽培技術等の実証

###### ○平成19年度

- 多収穫米の3品種（夢あおば、べこあおば、ホシアオバ）について、栽培特性を把握するための調査ほを設置し、生育や病害虫の発生状況、収量について調査を実施した。
- 栽培講習会を開催し、生育に応じた肥培管理について指導を行った。
- 調査ほの成績等から、目標とする収量800kg/10aを確保した「べこあおば」を選定するとともに、栽培暦を作成し、次年度の作付拡大に向けた農業者への説明資料として活用した。

###### ○平成20年度

- 地区の営農組合、市、JA、普及センターでチーム編成して、農林水産省委託プロジェクト「担い手プロ実証事業」に参加し、愛知県農業総合試験場が開発した「不耕起V溝直播栽培」の実証試験を実施した。
- 農業者への技術の普及を図るため、実証ほを活用した不耕起V溝直播実演会を開催し、市内外から約80名の参加があった。
- 実証試験の結果、不耕起V溝直播の栽培特性として、「ひとめぼれ」では移植水稻よりも生育が2週間ほど遅れ、収量は約9割の473kg/10aであった。
- 不耕起V溝直播栽培で、「べこあおば」「べここのみ」「ふくひびき」で品種比較を行い、苗立ち数が確保でき最も多収（664kg/10a）であった「ふくひびき」が地域での適応性が最も高いという結果であった。

### 【今後の課題、予定等】

#### ○今後の課題

- V溝播種機、鎮圧ローラの導入方法と管理主体等の選定

#### ○今後の予定

- 施肥やほ場準備の手順等、登米地域に合った栽培方法の検討
- 飼料用米栽培団地レベルでの展示ほの設置